令和4年度

京都府立綾部高等学校由良川キャンパス（東分校）

定時制課程

学校経営計画
（スクールマネジメントプラン）

計画段階

令和4年度　京都府立綾部高等学校（東分校定時制）　学校経営計画（スクールマネージメントプラン）　（計画段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
・学力の向上と進路希望の実現 ・基本的生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進	（成果） ◆「明日の京都を担う高校生育成支援事業」、「子どもの知的好奇心をくすぐる授業」、「高校生伝統文化体験（茶道）」などの事業を有効に活用することができた。多様な体験的な授業や外部講師を招いての授業を通じて、生徒は日頃体験することができない経験をすることができ多くの成長につながった。 ◆各教科でICT機器を活用し、生徒に興味関心を喚起させる効果的な授業展開が着実に実施できている。 ◆コミュニケーション力に課題があり中学校で学校に適応できなかった生徒についても、暖かい雰囲気の中、落ち着いて学校生活を送ることができている。 ◆定時制通信制卓球大会においては、卓球男子個人の部で優勝を飾り、近畿大会と全国大会への出場を果たした。 （課題） ◆特別な支援が必要な生徒の指導が適切にできるために、教職員研修や教職員間の意思疎通を充実させ、教職員一人ひとりの指導力や知識を向上させるとともに、外部機関とも適切に連携をとりながら、指導や支援にあたる必要がある。 ◆BYOD1年目において、タブレットを活用した効果的な授業展開ができるように、教員研修を充実させて更なるスキルアップを図っていく必要がある。 ◆学校行事などの取組の様子については、新聞掲載などを通じて広報はできているが、中学校に対して教育活動を理解してもらううための工夫を検討していく必要がある。	**■A・G・P（Ayabe Global Program）の推進** **<スマートスクール>** ・ICTを活用した授業　　・BYODを活用した授業 ・ONLINEの活用　　　・Slackの活用（ペーパーレス化・会議レス化） **<探究活動>** ・思考力・判断力・表現力の育成　　・SDGsを授業や学校行事へ **<地域発信>** ・地域でのボランティア活動 **<連携事業>** ・NPO法人　・介護施設　・保育園 **■3Q＋4Sの推進** **3Q** <Quality　Teacher>　教師としての資質向上 <Quality　School>　教育内容の充実 <Quality　Students>　未来を切り拓く人材の育成 **4S** **<整理><整頓><清潔><作法>** 整理整頓を心がけ、清潔な職場・学習環境を整える TPOに応じた言動を心がける 明るく元気に、笑顔がある学校

分掌・教科	項目（重点目標）	具　体　的　方　策　　及　び　　数　値　目　標	評　価		成　果　と　課　題
1 組織運営	・生徒の実態に応じた教育の実践と魅力ある学校づくり ・業務のスマート化と教育内容の充実	本校の教育課題に対応した教育実践をするため、分掌・学年・教科間の連携会議を毎月実施する。			
		体験的な取組や外部講師を招いての授業を多く取り入れ、その取組内容を外部に発信し、定時制の教育活動を理解してもらう。			
		ICTを活用した効果的な授業実践や業務運営ができるように、教員のICTリテラシーの向上に努める。			
2 教務部	・授業改善に努め学力の向上を図る。	校務システムを効果的に運用し、教務関係文書を正確に遅滞なく作成する。			
		教科担当・学級担任に教務関連情報を確実に伝達し、誤解や意思の不統一が生じないようにする。			
		補習などを効果的に行い、生徒個々の学力を向上させることにより、全員を卒業進級させる。			
3 生徒 指導部	・安心安全な学校づくりを行うために、個の発達段階に応じた指導につとめる。 ・豊かな人間性を育むために、体験活動を重視した教育活動を増やしていく。	各部・関連機関と連携しながら、問題事象等に俊敏に、また丁寧な指導を行う。			
		問題事象の芽を摘む予防活動をいっそう推進し問題事象ゼロを目指す。			
		各関係機関と連携して、薬物乱用防止学習、交通安全学習、非行防止学習等を適切に実施する。			
4 進路 指導部	・希望進路の実現に向けて、生徒の状況に応じた指導を行う。	様々な進路学習を通じて、進路に対する意識を高める。			
		4年生には進路希望に応じた指導を丁寧に行い、希望進路の実現を目指す。			
		書き写しの取組を通じて集中力を養い、丁寧な文字が書けるようにする。			
5 保健部	・心身ともに健康な学校生活を送れるよう、自己管理能力の育成を図る。	定期健康診断の事前・事後指導と感染症対策を徹底する。			
		生徒の実態に応じたほけんだよりの発行、保健学習を実施する。			
		生徒一人ひとりに応じた適切な支援ができるよう、日々の情報共有や実態把握を行う。			

分掌・教科	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
6 人権 教育部	・差別意識の解消に向けた学習を行い、生徒に人権意識を根付かせる。 ・奨学金制度の周知徹底を行い、進学や就職に際しての金銭的な不安の解消に役立てる。	基礎学力定着のために、個に応じた指導方法の工夫改善を行い、希望進路の実現を目指す。		
		人権意識を養うため、講演等の特設人権学習を年に2回実施する。		
		各学年部と連携のもと、生徒への奨学金制度の周知徹底に努め、希望者には適切な支援を行う。		
7 第1 学年部	・基本的生活習慣を確立させる。 ・生徒一人ひとりの様子を把握し、きめ細かい学習指導を行う。 ・家庭や学校での豊かな交流により社会性を身につけ、人間性を育成する。	自己を大切にし、他者を認め合うクラス作りをすすめる。		
		毎日の健康状態を確認し、お互いが安全で安心した学校生活を送る。		
		定期的に面談を行い、生徒の状態を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。		
8 第2 学年部	・基本的生活習慣を確立させる。 ・生徒一人ひとりの様子を把握し、きめの細かい学習指導を行う。 ・ 家庭や学校での豊かな交流により社会性を身につけ、人間性を育成する。	自己を大切にし、他者を認め合うクラス作りをすすめる。		
		毎日の健康状態を確認し、お互いが安全で安心した学校生活を送る。		
		定期的に面談を行い、生徒の状態を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。		
9 第3 学年部	・生徒の学習状況、生活状況を把握し適切な指導を行う。 ・各々の生徒が将来に向けて展望が持てるようにきめ細やかな進路指導を行う。	教科担当等の教員と連携を密にとり、必要に応じて生活・学習支援を行う。		
		生徒の現状把握のため、日常の挨拶を毎日行うなど積極的な交流を行う。		
		日常生活の振り返りを通じ、自己との対話を行わせ、主体的なキャリア形成を行えるよう指導する。		
10 第4 学年部	・生徒全員の卒業及び希望進路の実現を目指す。 ・生徒一人ひとりの学習状況と生活状況を把握し、他の教職員と連携を取りながら指導する。	積極的に生徒と交流を行い、得られた情報は職員間で共有する。		
		就職活動に対して、生徒同士で高め合えるようなHR運営をする。		
		HRや総合的な探求の時間を有効的に使い、希望進路実現の一助にする。		
11 国語科	・社会生活において必要な国語について、その特質を理解させ適切に使用できるよう指導する。 ・言語活動を通じて、生徒の思考力や想像力、表現力を育成する。	語彙力向上のための学習の機会を週に1回以上確保する。		
		生徒の理解促進のために毎回の授業内容を振り返る時間を確保する。		
		単元のまとめとして、自分の考え・思いを表現する時間を単元ごとに確保する。		
12 地歴 公民科	・地歴・公民の基本的な事項を理解し、知識として定着させる。 ・社会に出た時に必要な知識や能力、特に自分の意見や考えを持ち、それを相手にわかりやすく伝える能力を身に付けさせる。	生徒の実情に応じた教材を精選する。		
		パワーポイントを利用した教材と授業プリントを用意し、授業への関心を高め、知識の定着を図る。		
		リアルタイムのニュースを教材化し、社会への関心を持たせる。		
13 数学科	・数学の基礎的・基本的な知識技能を身につけ、日常生活に役立てることができる。 ・数学における様々な問題に対し、諦めずに取り組むことで「考える力」を養う。	プリントの空欄をすべて埋めるように指導する。		
		毎授業の最初に計算テストを実施し、基本的な計算能力を養う。		
		ICTを用いて授業の効率化を図り、図などを用いて視覚的な理解も深める。		
14 理科	・身近な事柄から理科に対する興味を持たせ，社会生活に必要な科学的知識・能力を身につけさせる。	理科に興味を持たせるため、実験や投げ込み教材、ICTを活用する。		
		自然や日常的な事柄と学習内容を関連させるため、社会人講師の登壇や新聞等を利用する。		
		理科における計算・知識を定着させるために、教科書以外に補助教材として、プリントを使用する。		

分掌・教科	項目（重点目標）	具 体 的 方 策	評 価	成 果 と 課 題
15 保健体育科	・保健、体育の授業を通して、生徒が心身ともに健康的に日々の生活を過ごすことができるための授業を展開する。また、生涯スポーツの観点から、多くの項目を通して卒業後もスポーツに積極的に触れ合う姿勢を育成する。	授業始めに体育館ランニング２往復と体操、ストレッチ(柔軟体操含む)を行う。		
		それぞれのスポーツへの知識や理解、興味を育成するため、全ての種目でプリントの資料を作成し、確認テスト、及び実技テストもおこなう。		
		多くのスポーツに触れ合う機会を持たせるため、ニュースポーツも取り入れ、１年間で7種目以上のスポーツを行う。		
16 英語科	・日常生活の中に英語があふれていることに気づかせて、身近に使われていることを実感させ、自分で学ぶことができる力を育成する。	生徒に関心を持たせ、理解を深めるために、ICT教材を使って授業を行う。		
		生徒に授業内容を整理させ、理解を深めさせるため、毎時間ノートを回収し点検する。		
		生徒に知識を定着させるため、全学年、毎時間、授業中に単語テストを実施する。		
17 芸術科	・基礎技術を充実させ、自ら表現する意欲を育てる。	授業規律を大切にする。		
		授業時間を有効に活用し、完成度を高める姿勢を身につけさせる。		
		基礎から高度な内容まで表現できる幅を広げさせるため、技術差のある生徒が取り組める課題を取り入れる。		
18 家庭科	・自立する力を育成する。	身近な事柄を教材として選び、生徒の興味・関心を引き出すよう工夫する。		
		体験的な学習課題を多く設定する。		
19 情報科	・現代社会における必須アイテムであるパーソナルコンピュータの基本的な操作を習得させる。	タッチタイピングの練習に力を入れ、文書作成ソフトによる反復練習を行い、文書入力量を重視して評価する。		
		プログラミングに取り組み、さまざまな事柄の効率化を行う考え方を身につけさせる。		

学校運営協議会による評価	

次年度に向けた改善の方向性	